第３２２回　令和８年１１月４日（水）

「ペットと暮らすこと」

私の家には３匹の犬がいます。そのうち１７歳の柴犬は亡くなった母の家から連れてきました。幸い年の割に元気です。ペットは癒しになりますし、私にとって大切な家族です。

先日テレビで犬を飼うことが認知症の予防につながるというニュースが流れていました。高齢者が犬を飼うことで年間５０００億円以上の社会保障費を減らすことができるそうです。精神的な支えや散歩をする効果などがあるのでしょうか。

少し懸念するのは飼い主に先立たれてしまったり、ケガや病気で入院したり、散歩ができなくなったりする事案が増えてしまうのではないかということです。自分も含め、ペットとどちらが先に寿命を迎えるかは誰にもわかりません。残されたペットが幸せに過ごせないことがないようにしてほしいものです。

最近は老人ホームならぬ老犬ホームや散歩の代行業もあります。飼い主が亡くなった場合、老犬ホームと契約していたとして、犬が大切にされなかったとしても苦情が出ることはないと思います。善良な業者だと良いのですが、受け入れのキャパがオーバーしたりすると環境の悪化につながる恐れがあります。

国や自治体で老犬ホームの環境について監視するシステムが確立されると良いと願っています。何頭につき何人の飼育員を雇うことが義務付けられている、大型１頭当たりの住環境の広さの確保が明示されているなど、ルールを設けてほしいです。

また私の母親もそうだったのですが、高齢者の散歩はケガのリスクがあります。認知症防止に役立っていても転倒による骨折が増えてしまっては逆効果です。

高齢者のペットは小型犬のみとするなど、制約があると良いのではないでしょうか。犬が遺された場合の保険に加入することも義務化してほしいですね。

ペットショップで売れ残ってしまう犬たちのその後を考えると、高齢者のペットブームは悪いことではないと思います。ペットは常に需要が供給を上回る市場であってほしいと思います。ただし様々なインフラを整備することは必要です。

私も愛するペットを看取ることをできればしたくありません。それでもお別れの時まで責任をもってしっかり面倒を見ることが飼い主の責任です。これからもペットブームは続くと思いますが、すべてのペットが晩年まで幸せに過ごしてほしと願います。